

令和5年度 施設としての自己評価

長崎おひさまの森保育園

平素は長崎おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	4	一人ひとりの子どもの様子を園内で話し合い、認識。保護者から伺った家庭での姿やこれまでの育ちも知ったうえで、その子にあった愛着形成のつくり方や方法を検討していった。1年間を通して常に「愛されている」「大事にされている」と思えるような声かけ、対応を職員全員で実践していくことができた。
一人ひとりの子どもとの関係を深め、安定的な愛着が育まれるよう実践する。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	3	ミーティングを活用し、事例を共有して同じようなケースが起きた時の対応を確認、検討した。実践した時の子どもの反応や変化を継続的に見守ったことで、違う場面での意欲にも結びついていくことを発見できた。プラスの声かけだと思い実践してみるが、今のその子にとっては意欲につながらないこともあった。精神面や今の育ちの変化をこまめに共有する大切さを学んだ。
その子にとっての最適な言葉選び、タイミングを職員間で検討し実践する。		
●施設設備		
・保育室環境について	3	年間カリキュラムや、ヒヤリハット記録等を参考にし、その時に適した玩具を選択し設定を行った。換気や室温設定等、健康的に子どもたちが過ごすことのできる環境を常に保てるよう配慮した。
子どもの育ちに合った、安全で快適な環境を保つ。		
・園周辺環境の活用について	3	周囲の交通量が多いことや気候の変化の差が大きかったことで園周辺の探索へといくことが難しかった。近隣での探索活動を十分に行いながら発達に寄り添った活動が行えた。今後同じコースを繰り返し行き来しながら職員で検討し今後活かしていきたい。
地域を探索し環境知識を深め、発達を促すことのできる環境であるか見直す。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	3	感染症についての知識をそれぞれが持てるようマニュアルを元に職員間で学びの時間を持つ。また感染症対策についても同様にマニュアルを元に学んでいった。職員を介して感染するリスクがあることから、職員の感染症対策の徹底も行っていった。
職員が共通認識をもち、予防と拡大防止に努められるよう対策を明確に示す。		
●運営		
・行事のありかたについて	4	行事を迎えるにあたり、一番にどんな日にしたいのか職員間で話し合う。行事の意味や意図を捉えながら子どもにとって自己発揮出来る内容と、保護者に共感してもらえ今後の子育てが豊かになるようにと月齢の差が伝わるようにしていった。
行事がもたらす意味と価値を踏まえ、行事の在り方を検討する。		
・保護者との連携体制について	3	どのような話を誰にしたいのか明確にすることで、コミュニケーションツールや伝える日を検討し実践することができていた。目の前のことだけでなく、相手の今までや求めていることを理解して連携をとること、価値観や思いこみで判断しないように心がけることによって、より思いが通いやすくなり協力して同じ方向をみて子どもを育てる体制が深まっているように思う。
日頃のコミュニケーションを密に行い、生活状況や考え方への理解を深め、協力して子どもを育てる体制をつくる。		
・危機管理について	3	市からの情報や事例を職員間で確認し、日々の行動を見直し検討、改善していった。又、事前対策や起きてしまった時の対応が速やかに連携をとって行えるようにフローを活用したり、シミュレーションをして備えるようにしている。
市からの情報や事例を活用し、防犯対策や災害発生時の対応を見直す。		

【総評】

平素より、園へのご理解とご協力を誠にありがとうございます。
今年度もその子の今を大事にしていけるよう、今を捉えその育ちを職員間で共有し、職員皆で一人一人の育ちのサポートを行ってまいりました。
引き続き保育の専門力を向上させていき、豊かな子どもの育ちを保護者と共に見守っていけるよう、一層尽力して参ります。
今後ともよろしくお願いたします。

令和6年3月1日

園長 鈴木 志穂

上記の園自己評価の結果を掲示とともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4/末日まで開示します。